

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・伊藤	写真・後藤
山行番. NO. 2027		
日 時	2023年07月15日(土) 無風・曇・蒸し暑い	
山 域	御坂山塊・黒岳(1793m)	
コース	長泉 6:00-御坂トンネル南口バス停(三ッ峠口) 7:26-御坂トンネル-藤野木(とうのぎ)バス停(330-) -発 7:45-行者平 8:47-石畳 9:08-旧御坂峠 9:38-黒岳 10:48-第一展望台(昼食) 10:51~11:35-南尾根-板取沢分岐 12:26-南口駐車場 13:24-御殿場・お胎内温泉-長泉・反省会	
標高差	上・下り 藤野木登山口約930m~黒岳1793m=約863m	
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<h2>忘れられた古道を辿る</h2>		
参加者	後藤、伊藤、山田、長島=4名	

車は御坂トンネル南口駐車場に置く。三ッ峠入口バス停から7:26のバスで御坂トンネルを抜け藤野木(とうのぎ)バス停で降りる。料金は330-だった。



三ッ峠入口バス停

路線バスで行く山

ここから旧道を上る。入口で側溝工事のオジサンに「クマが出たから気をつけな」と注意をいただき、不安を抱きながら上る。鬱蒼とした林道は、サウナ状態でした。「オオバボダイジュ」の看板があった。

林道が終わり、赤い鉄橋を渡る。名前は分からないが、洞(うろ)がある立派な樹木があった。旧道の下部は荒れていたが、途中に「行者平」の看板があった。その昔、行者が修行をしたのだろうか。「子持岩」とよぶ碑もあった。

荒れた道が終わると、ようやく、本来の旧道に出た。大昔は、恐らく牛馬も通行できたであろう立派な道だった。小規模だが、「石畳」が見られた。

天空が広がり、明るくなると旧御坂峠だった。右手に朽ちた小屋の残骸が横たわっていた。昨年8月に来た時は、小屋跡には、ゴミが山積にされていた。



2022/08/21



2023/07/15

キレイになった理由は、今年、「山梨山の会」ほか、労山の清掃登山で片づけてくれたからだ。山梨山の会は、以前、乾徳山・錦昌水のゴミも清掃してくれた。頭が下がる思いである。



石畳

しかし、中にはまだ生活ゴミ（釜など）が散乱しているから、もうひと踏ん張りと言いたい所だが、実はまだ、山頂下にも小屋残骸がある。そうなると、個人の努力では限界がある。行政で処理するのが良いだろう。そもそも、今まで放置されて来たのは、行政の怠慢ではないか。

ピークを三つ程乗り越え、やっと1792mの黒岳に着きました。記念写真を撮って展望台に移動。曇天の割に富士山が目の前にあった。下には河口湖と街が良く見えた。

その景色と後藤農園の美味しいトマトで昼食。10名程が行ったり来たり、展望を楽しんでいた。



山頂下の小屋残骸



第一展望台

昼食後、南尾根を下山。すぐ下に更に素晴らしい第二展望台があった。「次回は、ここがイイよね」話した。



第二展望台

ここから滑り易い急斜面にロープが多くなった。慎重に下っていたら、地元（若者言葉で、ジモジモという）オジサンが上って来た。ミシマから来たというと、「明日、オレは“うな繁”にウナギを食いに行くんだ」といった。お待ちしております。

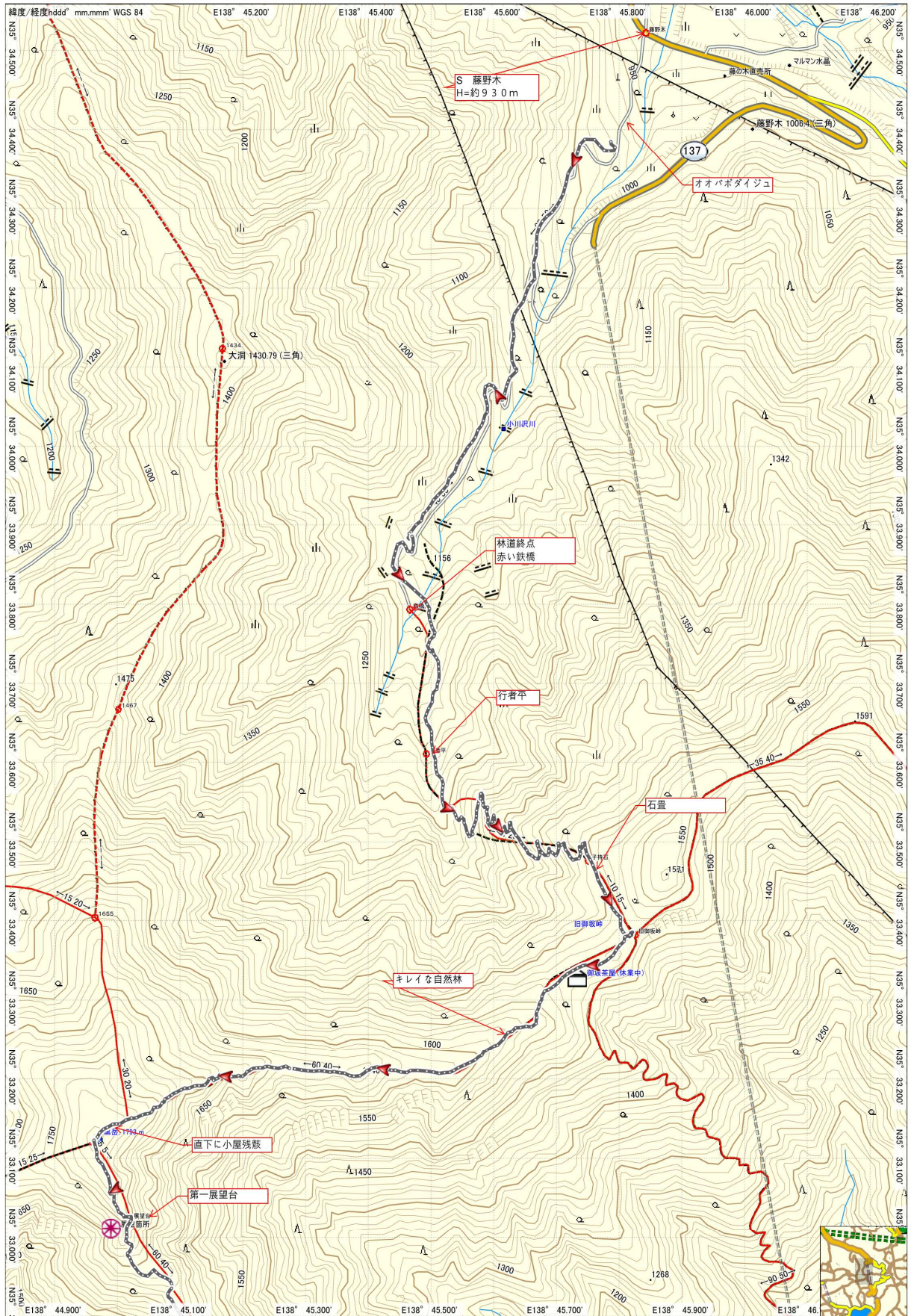
そのオジサンは、南尾根を河口湖から上って来て「大変だったね」といったら、「そんなこと、○×◇▽×○」と、面白い山梨方言を聞いたが、忘れてしまった。（ネットでは、大したことはないは＝がとのこたあねえ、でしたが・・・）



ロープ道

ジモジモ

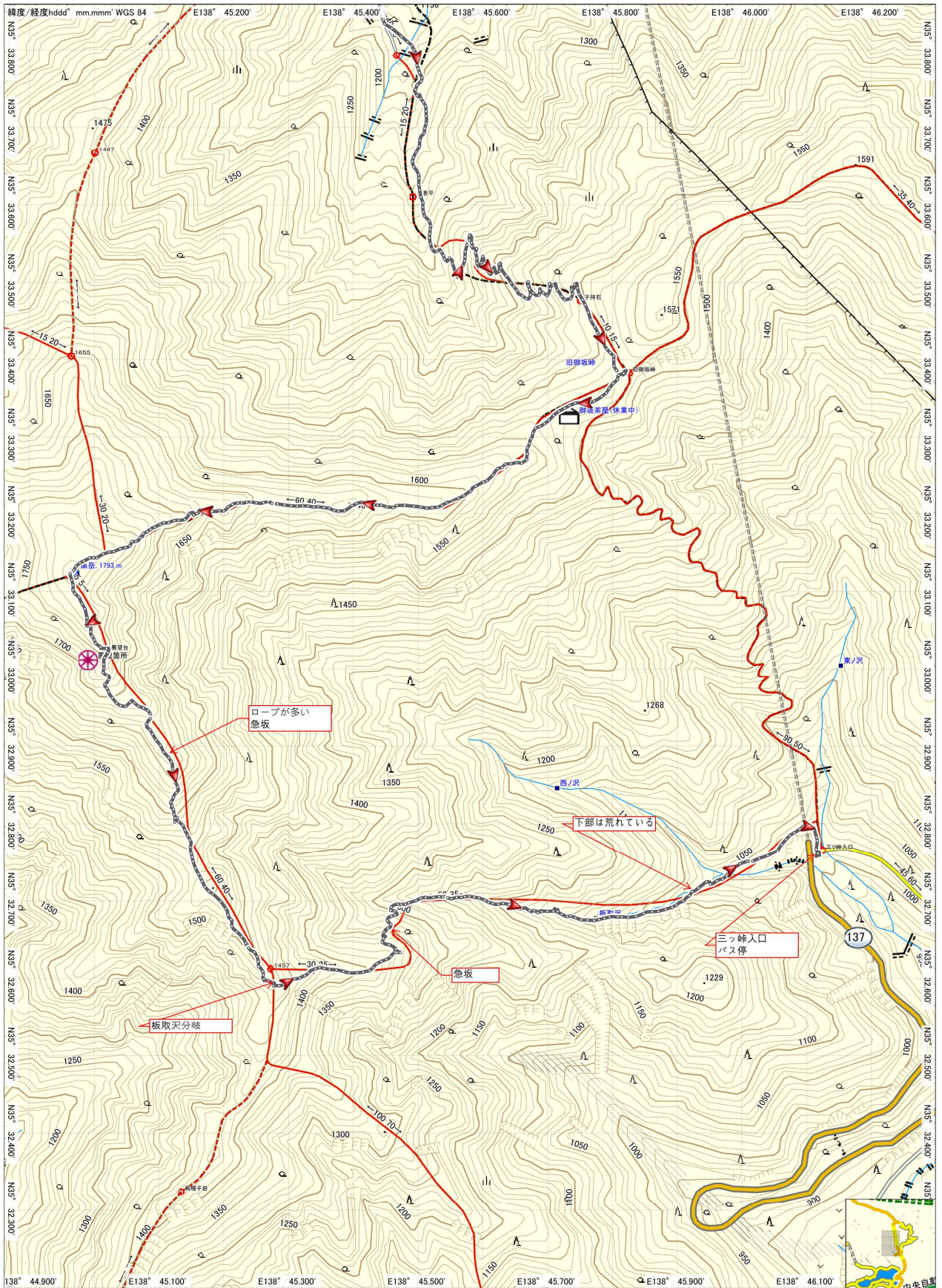
板取沢分岐から御坂トンネルに下る。尾根を外したらモーレツな蒸し蒸し。下部は荒れ放題。ピッタリ駐車場着。クマに会わず、ヤレヤレでした。お胎内温泉で汗を流し、ブドウをゲットし、満足感にいっぱいでした。（一部、編集部で加筆しました）



Japan Topo 10M Plus V3
 © 2014 Garmin Corporation 100-0014

2023/07/16 15:04:16

GARMIN
 2023 05 01



2023/07/16 15:04:16

Japan Topo 10M Plus V3
Copyright © 2014 Garmin Corporation 1995-2014

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

GARMIN

2010/01/01